

作成日 : 2008 年 2 月 18 日

改訂日 (V.2) : 2008 年 11 月 26 日

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 : **アプライプリンス粒剤 6**

会社名 : 日本農薬株式会社
 住 所 : 〒103-8236 東京都中央区日本橋 1-2-5 栄太楼ビル
 担当部門 : 環境安全部
 TEL. 03-3274-1887, FAX. 03-3281-5462
 e-mail: kankyouanzen@nichino.co.jp

休日の連絡先 : 04-2929-8961 (A L S O K)

用途及び使用上の制限 : 農業用殺虫・殺菌剤、農薬登録以外の使用は不可

MSDS 番号 : 501-139 (M07-35)

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	自然発火性個体	区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	生殖毒性	区分 2
	特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分 1 (呼吸器/吸入暴露)
		区分 2 (肝臓、腎臓)
環境に対する有害性	水生環境有害性(急性)	区分 2
	水生環境有害性(慢性)	区分 2

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

生殖能または胎児への影響の恐れ
 の疑い
 長期にわたるまたは反復暴露による臓器(呼吸器/吸入暴露)の
 障害
 長期にわたるまたは反復暴露による臓器(肝臓、腎臓)の障害の
 恐れ
 水生生物に毒性
 長期的影響により水生生物に毒性

注意書き

【予防策】

- 取扱いの際には飲食または喫煙をしないこと。
- 全ての安全注意書を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 使用前に取扱い説明書を入手すること。
- 個人用保護具や換気装置を使用し、暴露を避けること。
- 粉塵の吸入を避けること。
- 取扱い後はよく手を洗うこと。
- 必要な時以外は環境への放出を避けること。

【対応】

- 暴露又はその懸念がある場合、医師の診断を受けること。
- 気分が悪いときは医師の診断を受けること。
- 漏出物を回収すること。

【保管】

- 容器を密閉して換気のよいところで施錠して保管すること。

【廃棄】

- 内容物、容器を法、条例等に従って安全に処理する。または都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。

その他の危険有害性：特に無し。

3. 組成, 成分情報

単一製品・混合物の区分：混合物

有効成分化学名(一般名)：

- ・ 3'-クロロ - 4, 4' - ジメチル - 1, 2, 3 - チアジアゾール - 5 - カルボキサニリド
(一般名 チアジニル)
- ・ (±)5 - アミノ - 1 - (2, 6 - ジクロロ - α, α, α - トリフルオロ - p - トルイル) - 4
- トリフルオロメチルスルフィニルピラゾール - 3 - カルボニトリル
(一般名 フィプロニル)

成分及び含有量：

成分	含有量	CAS No.	安衛法 No.	化審法 No.
チアジニル	12.0%	223580-51-6	8-(7)-1324	—
フィプロニル	0.6%	120068-37-3	—	—
化管法第一種指定化学物質				
〈その他〉				
含水珪酸	9.2%	112926-00-8	既存	(1)-548
安衛法通知対象物				
鉱物質微粉等	残	—	—	—

4. 応急措置

皮膚に付着した場合：汚染された着衣、靴等を速やかに脱がせ、付着部を多量の水と石鹼でよく洗浄する。異常が現れた場合には、医師の診断を受ける。

眼に入った場合：直ちに清浄な流水で15分以上洗浄する。眼球、まぶたの隅々まで水がよく行きわたるように洗う。医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合：口の中をすすぎ、カップ1～2杯の水を飲ませる。医師の診断を受ける。意識がないときには口から何も与えてはならない。フィプロニルによる中毒に対しては、動物実験でフェノバルビタール製剤の投与が有効であると報告されている。

吸入した場合：被災者を速やかに空気の新鮮な場所に移す。異常が現れた場合には、直ちに医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火時の注意：消火活動には適切な保護具(自給式空気呼吸器等)を着用し、風上から作業する。高温により発生するガス、煙を吸い込まないように注意する。消火水が下水や河川等の水系に流れ込まないように適切な処置をとる。

消火剤：粉末、泡沫、炭酸ガス、水

6. 漏出時の措置

付近の人を風上に避難させ、漏出現場への立ち入りを禁止する。適切な保護具(保護衣、保護メガネ、保護マスク等)を着用して、眼や皮膚に触れたり、粉塵やガスを吸い込まないようにする。漏出物を密封できる容器に回収する。その後、汚染された場所を水で洗う。漏出物や洗浄水等が河川、下水等に流出し、環境へ影響を与えないように措置する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い： 局所排気装置を設置し、換気のよい場所で行う。かぶれやすい体質の人は、取扱いに十分注意する。適切な保護具を着用し、粉塵を吸い込んだり、眼、皮膚に触れないようにする。作業後は、すみやかに眼、手、顔を洗い、うがいをする。

保管： 容器を密封し、換気のよい冷暗所に保管する。食物、飼料等と離し、無関係者、子供の手の届かないところに施錠して保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策： 局所排気装置を設ける。取扱い作業場の近くに洗眼、洗面、うがい、安全シャワー設備を設置する。

個人保護具： 状況に応じた適切な保護具を着用する。
保護マスク、保護メガネ、保護衣(長袖・長ズボン)、ゴム手袋

9. 物理的及び化学的性質

外観： 類白色細粒
比重： データ無し。
pH： 6.0~7.0/20°C(1%水懸濁液)
引火点： データ無し。
自然発火性： 常温の空気と接触しても自然発火しない。

10. 安定性及び反応性

安定性： 通常の条件下では安定。
危険な反応： 知られていない。
有害な分解物： 燃焼すると有害なガス(HCl、HF、CO、SO_x、NO_x等)が発生する可能性がある。

11. 有害性情報

急性経口毒性： ラットLD₅₀値 (mg/kg) 推定値ATE_{mix}=5774(毒性未知成分量 75.7%)
急性経皮毒性： 1%以上含有される成分で、毒性情報のある成分は全て区分外であることから区分外とした。毒性未知成分量は 75.7%。
生殖毒性： 区分2に分類されるフィプロニルをカットオフ値 0.1%以上含有するため区分2とした。毒性未知成分量は 86.6%。
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)：
区分1(呼吸器/吸入暴露)に分類される含水珪酸及び区分2(肝臓、腎臓)に分類されるチアジニルをカットオフ値 1%以上含有するため区分1及び区分2とした。毒性未知成分量は 77.4%。

12. 環境影響情報

水生環境有害性(急性)

区分2

急性区分1および急性区分2に分類される成分含量及びそれらの毒性値から推定し、区分2とした。毒性未知成分量は 77.4%。

水生環境有害性(慢性)

区分 2

慢性区分 1 および慢性区分 2 に分類される成分含量及びそれらの毒性値から推定し、区分 2 とした。毒性未知成分量は 77.4%。

13. 廃棄上の注意

法、条例等に従って安全に処理する。または産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。
空容器：内容物を使い切った後、適切に処理する。

14. 輸送上の注意

容器に異常の無いことを確かめ、転倒、落下しないように積載する。

15. 適用法令

農薬取締法

労働安全衛生法

通知対象物(法 57 条の 2)：含水珪酸(政令番号 312)

(フィプロニルは化管法第一種指定化学物質であるが、含有量が 1% 以下のため、本製品は化管法には該当しない。)

16. その他の情報

本データシートの記載内容は、この製品の取扱い時の安全性に関する参考情報であり、安全性や品質の保証をなすものではありません。またヒトに対する危険、有害性の評価は、必ずしも充分ではありませんので、取扱いには充分注意を払って下さい。